人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷(さと)●京丹波

広報 京丹波
KYOTAMBA

NO.80
6月号
2012年6月15日発行

緑映える季節
五穀豊穣を祈り
早乙女 田植え

発行／京丹波町　〒622-0292京都府船井郡京丹波町蒲生八ツ谷62番地6　電話（0771）82-0200（代表）・（0771）82-3801（直通）　企画・編集／企画政策課
［ホームページアドレス］http://www.town.kyotamba.kyoto.jp　［電子メール］kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

今月の表紙

5月27日、下山地内尾長野区の水田で行われた京都祇園八坂神社御田祭。地元関係者ほか多くの見学者が見守るなか、五穀豊穣を祈り早乙女による田植えが行われました。（関連記事を14ページに掲載）

NO.80 CONTENTS

2 丹波の歴史の一端が明らかに
蒲生野古墳群から新たな時代の遺構を発見

5 イベントなどで盛り上がる
ゴールデンウィーク中の京丹波町

8 今後の高齢者施策の基本方針決定
京丹波町高齢者福祉計画及び第5期介護保険事業計画を策定

10 行政Information
●放射線量測定器の貸し出しを開始しました

11 Dr's Message いきいき健康術

12 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2012

地域の力で美しいまちに
―ボランティア・ロード丹波

安全運転で交通事故防止を
―交通死亡事故多発警報発令に係る街頭啓発

地域ぐるみで事故防止を
―水原区高齢者交通事故防止モデル地区推進委員委嘱式および研修会

素敵な出会いをサポート
―わち山野草の森deときめきツアー

各地で見られた天体ショー
―日食

親子でリズムに合わせて
―子育て支援センター交流会

住民参加の町づくりへ
―京丹波町区長会全体会

力を尽くして記録に挑む
―南丹・船井中学校陸上競技選手権大会

豊かな実りを願う田植え行事
―京都祇園八坂神社御田祭

田植えを通じて、豊かな自然を満喫
―あっぱれたんぼ 田植えイベント

新緑の京丹波で交流
―障害者ふれあい広場

16 シリーズ 季節の食材を使ったお手軽料理レシピ

丹波の歴史の一端が明らかに

蒲生野古墳群から新たな時代の遺構を発見

民間事業者による宅地造成事業に先行して、町教育委員会が主体となり、事業者や府教育庁文化財保護課協力のもと行われた今回の発掘調査。この地域では今まで確認されていなかった古墳時代前期（約一六〇〇年前）や弥生時代中期（約二〇〇〇年前）の埋葬施設などが発見され、それぞれの遺構からは全国的にも珍しい副葬品も出土しました。

今回はその発掘結果とあわせて、明らかとなった私たちが住む京丹波町を含む丹波地域の歴史の一端などをお伝えします。

蒲生野古墳群および周辺の遺跡について

発掘調査が行われた蒲生野古墳群は、京丹波町蒲生地内にある遺跡で、戦後の開発などにより八基あった古墳全てが失われてしまいましたが、これまでの発掘調査などで出土した土器などから、約一四〇〇年前の古墳時代後期の古墳群と考えられてきました。

この古墳群の周辺には、旧石器時代から飛鳥時代（約三〇〇〇年～一三〇〇年前）にかけての集落跡などが確認されている蒲生遺跡や、古墳時代中期後半の塩谷古墳群（巫女形埴輪などが出土）などがあり、今回発掘された弥生時代から古墳時代前期頃の遺構により、この地域には古くから多くの人が住み、一帯を治める有力者が存在したことがより確実となりました。

またこの発見により、当時京丹波町を含む丹波地域が畿内（現在の奈良県一帯および大阪府・京都府の一部）と日本海側の但馬・丹後・若狭を結ぶ交通の要所であったことがわかります。

発掘調査の様子（蒲生野古墳群・蒲生）

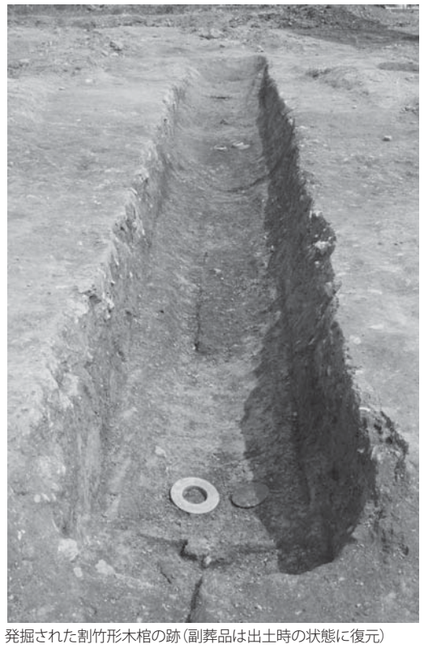
発掘された遺構

今回発掘された遺構は、それぞれ別の時代のもので、生活の様子を伺える土器とともに当時としては珍しい物も副葬品として出土しました。

遺構ごとの出土したものとその時代背景などは次のとおりです。

1 古墳時代前期の埋葬施設

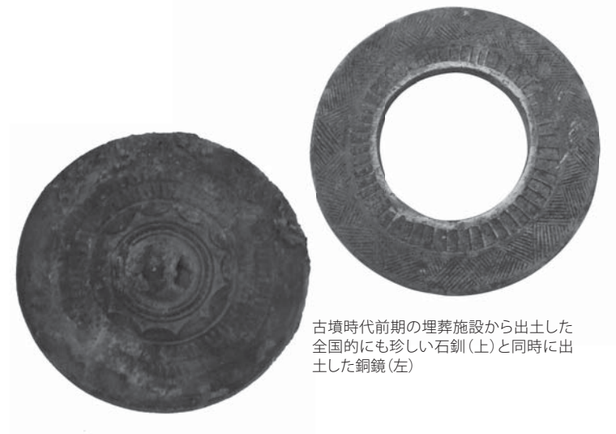
この遺構は、今までの土地造成などにより古墳上部の墳丘盛土は失っていますが、発掘したお墓の形や規模から古墳時代に多くみられる割竹形木棺（丸太を縦に割り内側をくりぬいたもの）が納められていたと考えられます。



発掘された割竹形木棺の跡（副葬品は出土時の状態に復元）

用語説明

副葬品…亡くなった人と共に埋葬するもの。装飾品など



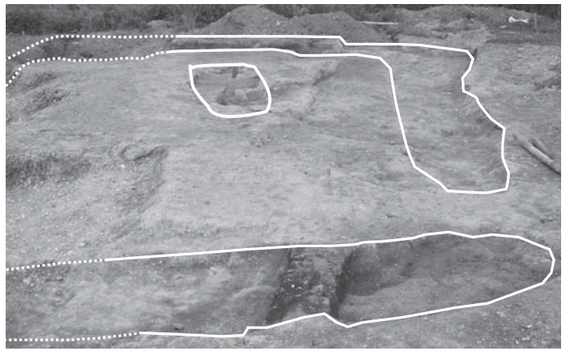
古墳時代前期の埋葬施設から出土した全国的にも珍しい石釧（上）と同時に出土した銅鏡（左）

この木棺跡からは、副葬品として棺の中央から東側と西端の二ヶ所から、それぞれ鉄製の斧や石釧（碧玉などの腕輪）、銅鏡のほか、装飾品に用いられていたと思われるたくさんのガラス玉や管玉（管状の装身具）など約百二十点が出土しました。このうち石釧の一つは、外側が鋸歯文（三角形を並べたのこぎり歯のような模様）、内側が櫛歯文（くしの歯のような模様）という二つの模様を組み合わせた特殊なもので、類似したものは全国でも十七例しか出土しておらず、大きさも一一・六㎝と現在出土しているものの中では西日本では最大のものでした。今回出土した石釧や銅鏡などは、この地域で作られたものではないことから、当時のヤマト政権や丹後の地域政権を通じて、権威の象徴として入手したものと考えられ、この古墳に埋葬されていた人は、この地域の有力者であり、ヤマト政権へも参画していたことを示すものです。

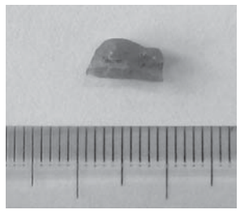
2 弥生時代中期の方形周溝墓

方形周溝墓とは、埋葬施設のまわりに溝を掘ったもので、弥生時代に近畿地方を中心に作られていたものです。今回発見された方形周溝墓は、一辺が約一〇ｍの規模と推定され、中心的な人物が埋葬されていたと思われる部分は以前に行われた開発により失われていましたが、南端に木棺が納められていた埋葬施設が発見されており、その大きさから子どもが埋葬されていたと思われます。

この埋葬施設からは、装飾品として使用されていた碧玉製の管玉やこの当時では珍しいガラス玉が出土しており、このガラス玉を副葬品とした例は畿内にはほとんどないことから、この時期の丹波地方は、当時ガラス玉を生産加工していたとされる丹後地方と深いつながりがあった可能性があります。



発見された方形周溝墓の一部（白線部分が埋葬施設および溝。点線部は失われていた部分）



方形周溝墓から出土したガラス玉（一目盛り1mm）

今後の取組みについて

今回発見された遺構は、町内では今まで発見されていなかった時代の埋葬施設であり、出土した副葬品も丹波地域では大変珍しいものでした。これはこの地域が、古くから当時大きな力を持っていた政権などと結びつきがあったことを示しており、これまで明らかではなかった、この地域の歴史の一部を知る上でも大変貴重なものとなりました。

今後は周辺地域の埋蔵文化財の分布に関する調査なども検討されていくこととなります。

出土した石釧に見入る来庁者（京丹波町役場・蒲生）

特別展示を開催

今回出土した副葬品などは、5月14日から27日まで京丹波町役場本庁で展示され、期間中は新聞報道などで発掘調査を知った多くの人が訪れ、珍しい出土品に見入っていました。

イベントなどで盛り上がる ゴールデンウィーク中の 京丹波町

4月28日から5月6日まで最大で9連休となった方もあるゴールデンウィーク。皆さんも旅行に、帰省に、農作業にと忙しい日々を過ごされたのではないでしょうか。

町内においても、各地の施設でイベントや大会が催され、町内だけでなく、京都府外などからも多くの方が訪れ、大変にぎわいました。

今回は、イベントやスポーツで盛り上がった京丹波町の様子をお伝えします。

質志鐘乳洞公園

五月三日と四日の二日間、質志鐘乳洞公園で同公園協力会（北野秀治会長）による「質志鐘乳洞公園春まつり」が開催されました。

平成五年八月の同公園開園の翌年から毎年行われ、今回で十九回目の開催となった春まつり。両日とも雨が降ったりやんだりのあいにくの空模様となりましたが、約五八〇人が訪れました。

園内では、京阪神から訪れた家族連れなどがバーベキューなどをして楽しんでいたほか、園内にある府下で唯一の鍾乳洞には、親子連れなどが次々と見学に入り、初めて見る鍾乳洞に興味津々な様子で楽しんでいました。

春まつり期間中は、地元から野蕗の会（神谷みつ子代表）とあけぼの会（北村辰浩代表）が日替わりで竹の子ごはん、もち、山菜の天ぷらなどの販売を行い、入園者は春の味覚に舌鼓を打っていました。

また、園内に設置された二基のコテージは、イベント期間中は全て満室。連休を通しても多くの方が利用し、緑豊かな公園で休暇を過ごしました。

鍾乳洞内部を見学する子どもたち

地元で採れた山菜の天ぷらなどを買い求める来園者

わち山野草の森

春の野花が咲くわち山野草の森では、質志鐘乳洞公園と同じく五月三日と四日に「春・山野草の森祭り」が開催されました。

園内では、園芸花コーナーとして果樹の苗木や野菜苗の販売が行われたほか、苔玉づくりの体験教室や美味しいものコーナーとして、さまざまな種類の山野草の中から五つ選んで揚げてもらえる「山菜・山野草天ぷら」や、園内で採れたヨモギを使った杵つきあん入りもちのほか、きつねうどん、竹の子ごはんなどの販売とあわせて地元業者による回転焼きやたこ焼きなどが売られていました。

苔玉教室に参加していた大阪から来た家族連れは、指導員から作り方の説明とともに「木を育てることは自分を育てること。大事に育ててください」と教えられ、自分で選んだ木を使って慣れない手つきで一生懸命作っていました。

また、園内では四月二十八日から五月六日まで春の山野草展を開催。四月二十九日から五月五日までは、エビネ展と即売が行われました。

苔玉づくりをする子どもと指導員

美しく飾られた野草などを見学する来園者

丹波自然運動公園

丹波自然運動公園では、五月五日に恒例となった「ちびっこまつり」を開催。町内の施設では最多となる約二万四千人が来園しました。

連休後半唯一の快晴となった五日は、強い日差しの中、午前中はツリークライミング、ウォークラリーなどが行われたほか、警察署と消防署がコーナーを設け、パトカーなどの車両の展示とあわせて起震車の体験や記念写真の撮影が行われました。

午前十一時三十分からは野外ステージでご当地アイドル「KT○七七一―」をはじめ、関西学院大学の学生による大道芸、京野菜のテーマソングを歌う奥野ひかるさんのショーが行われ、楽しいステージに来園者は歓声をあげていました。

午後は野外ステージ横の「ジャブ池」で金魚のつかみどりが行われ、真夏を思わせるような暑さの中にもひとときの涼を楽しみながら子どもたちが泳ぎまわる金魚を追いかけていました。

また、園内ではフリーマーケットや特設売店が開設されたほか、京都府立工業高等学校の学生による乗り物コーナーも用意され、親子連れなど多くの人が利用していました。

当日は、京丹波町食のキャラクター「京丹波味夢くん」も登場し、子どもたちが駆け寄って握手したり抱きついたりしていました。

味夢君に駆け寄ってきた子どもたち

池に放された金魚をつかまえようとする子どもたち

グリーンランドみずほ

町内でゴールデンウィーク最大のスポーツイベントとなるホッケーフェスティバルが、四月三十日にグリーンランドみずほ人工芝ホッケー場と多目的グラウンドで町教育委員会と町体育協会が主催して行われました。

この大会は、町合併後七回目の開催となり、町内のスポーツ少年団や社会人によるチームのほか、岐阜県や山口県など府外からも多数参加し、これまでで最多となる六十六チーム約六百人が六つのコートに分かれて、予選・決勝リーグと熱戦を繰り広げました。

各コートでは、未来の日本代表となる可能性を秘めた子どもたちが必死にボールを追いかけていました。

また、会場には京丹波味夢くんも登場。参加者を和ませていました。

なお、試合結果は次のとおりでした。

対戦相手と競い合うスポーツ少年団の子どもたち

【小学生男子】
①彦根ワイルドキッズ（滋賀県）
②かかみの（岐阜県）
③郡家東ホッケースポーツ少年団（鳥取県）

【小学生女子】
①かかみの（岐阜県）
②春照ホッケースポーツ少年団（滋賀県）
③馬木小学校スポーツ少年団（島根県）

【中学生男子】
①彦根南中学校（滋賀県）
②伊吹山中学校（滋賀県）
③磐梨中学校（岡山県）

【中学生女子】
①横田中学校（島根県）
②伊吹山中学校（滋賀県）
③彦根南中学校（滋賀県）

【一般男子】
①春照ぱぱ（滋賀県）
②京都ワイルドボアーズ（京都府）
③瑞穂クラブ（京都府）

【一般女子】
①春照まま（滋賀県）
②ぽこぽこクラブ（京都府）
③京都クラブ（京都府）

強烈なシュートをくり出す社会人の参加者

京丹波町出身者が大活躍しました。
2012ロンドンオリンピック予選大会

熱戦を繰り広げる日本代表選手。写真中央は長澤選手

本年七月二十七日から開催される、ロンドンオリンピックホッケー競技の予選大会が四月二十五日から五月六日まで、岐阜県各務原市の岐阜県グリーンスタジアムで開催されました。

この大会は、日本を含む六ヶ国がオリンピック出場の最後の一枠をかけて参加し、男子日本代表の中心選手として、京丹波町出身の坪内一浩選手と長澤克好選手が参加しました。

五月四日までの予選リーグを四勝一分の首位で突破した男子日本代表は、オリンピック出場国を決めるため、五月六日に予選リーグ二位の南アフリカ共和国代表と戦いました。

結果は、二点リードされた後半に一点を返すも一―二と惜しくも敗れ、四十四年ぶりのオリンピック出場はなりませんでした。

当日スタジアムには、約六十人が町内から出た応援バスで駆けつけ、熱っぽく選手たちの動きを見つめるスポーツ少年団の子どもたちや中学校ホッケー部の生徒たちは、自分たちの憧れの先輩二人に対して、一生懸命声援を送っていました。

今後の高齢者施策の基本方針決定

京丹波町 高齢者福祉計画及び 第5期介護保険事業計画 を策定

町の高齢者施策の指針となる「京丹波町高齢者福祉計画及び第5期介護保険事業計画」。このたび平成24年度から26年度までの計画が策定されましたので基本的な理念や方針、計画の概要についてお伝えします。

計画策定の趣旨

現在、京丹波町だけでなく全国的な高齢者人口の増加に伴い、要支援・要介護認定者は年々増えてきており、また核家族化などの進行により、ひとり暮らし・高齢者のみの世帯も増え、「住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたい」という高齢者のニーズにどのように答えていくかが課題となっています。

このような状況の中で、平成二十三年に国は、高齢者が介護が必要になってもできるだけ自立した日常生活が送れるよう医療・介護・福祉などが一体となって高齢者を支援する「地域包括ケアシステム」の構築を目指し、介護保険法の改正を行いました。

本町ではこのような国の動きを受け、町内の高齢者福祉および介護保険事業の状況、高齢者の実態を踏まえたうえで、今後の高齢者に関するさまざまな施策の展開の基本となる「京丹波町高齢者福祉計画及び第五期介護保険事業計画」を策定することとしました。

計画策定に係る体制

今回の計画は、区長、民生委員、高齢者団体、介護サービス事業者などの代表十五人による「京丹波町介護保険事業計画等策定委員会」（谷垣勇委員長）において平成二十三年八月から平成二十四年二月の間、鋭意検討を重ね策定されました。

策定委員会の様子（瑞穂保健福祉センター・和田）

施策の体系

今回の計画は、大きく分けて四つの体系に分けて策定されています。体系別の概要は次のとおりです。

❶ 高齢者の自立を支える地域づくり

誰もが住み慣れた地域において、安心して自分らしく充実した暮らしができるよう、地域の保健・福祉・医療などの社会資源を活用し、地域包括ケアシステムの構築を図ります。また、地域単位で高齢者の心身の健康の維持、生活の安定に必要な援助などの支援が行われる体制の整備を推進します。

デイサービスで体を動かす高齢者（瑞穂保健福祉センター・和田）

❷ 高齢者の生きがいづくり

いきいきとして生きがいのある人生を過ごすためには、人のために活動したり、自分自身のために余暇を楽しむことはもとより、健康に対する自覚を深めることが必要です。

そのためには、高齢者の豊かな知識や経験が地域に還元され、いきいきと暮らすことができる体制を整備することに加え、一人ひとりの健康状態、年齢や体力に合わせた健康づくりと介護予防を支援します。

❸ 自立のための生活支援の充実

高齢者が安心して自立した暮らしを続けられるように、ひとり暮らしの高齢者をはじめとした日常生活に不安のある高齢者の生活支援を行います。

また、在宅で介護を行う家族の負担を軽減するために支援体制の整備を推進します。

通院が困難な方への移送サービス（京丹波町病院前・和田）

❹ 介護保険サービスの充実と質の拡大

介護が必要な状況になったとき、必要な介護サービスが受けられるように、町は保険者として介護保険サービスの充実を図るとともに、現任研修などによりサービスに携わる人材の資質の向上を図ります。

また、地域密着型サービスをはじめとした介護保険サービス事業者に対する指導を行い、要介護（要支援）状態の軽減や悪化の防止を目指すなど適正な介護保険の運営を行います。

計画の推進に向けて

今回策定された計画については、町内における高齢者施策に関する総合的な計画であることから、その推進には町だけでなく、民間団体や保健・福祉・医療・介護などの各機関がお互い連携しあい、協力できる体制づくりを進めていくこととされています。

また、本計画を円滑に推進していくためには、住民の方への周知も必要とされていることから、今後は様々な媒体を通じての情報発信や各種事業の実施による広報活動も行われることとなります。

計画の基本理念

みんなで支える〝輝く生涯〟あたたかな心でつくる安心・健康・いきいき　京丹波

Dr's Message

いきいき健康術 第58回

『家庭血圧測定のすすめ』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。

今回の担当は和知診療所で毎週火曜日の内科診察を担当されている上村聖子先生。血圧の異常を早期に発見することにもつながる家庭での血圧測定についてのお話です。

家庭血圧を測定することは病院・診療所に比べて測定回数が増えるため、血圧の変化をより正確にみることができます。通常、血圧は夜間に下がり、早朝の目覚めとともに上昇していきます。

そこで、家庭血圧からわかる血圧異常を主に三つ挙げます。

① 早朝高血圧（仮面高血圧の一部になる）

朝方の血圧が夜に比べて特に高いもの。二タイプあり、夜間には血圧が低くなるが、早朝に急激に上昇するタイプと、夜に血圧が下がらず、早朝になるとそのまま持続して高くなるタイプがあります。

② 仮面高血圧（逆白衣高血圧）

診察時の血圧は正常なのに家庭血圧が高いもの。早朝高血圧や夜間高血圧などです。

③ 白衣高血圧

病院・診療所で血圧を測るといつもより血圧が高いものです。

内科医師 上村（うえむら） 聖子（さとこ）先生
（和知診療所）

注意すべきは①と②で、朝の急激な血圧上昇は、脳卒中や心筋梗塞（こうそく）などの病気（朝六時～十時が多い）と深く関係し、早朝高血圧の人はその危険性が三～六倍高いと言われています。家庭血圧は病院・診療所では把握しにくいこれらの血圧異常の発見や治療効果の評価など診療の助けになりますので、積極的に測定しましょう。

また、この三つに限らず、おかしいと感じたときは、かかりつけの医師へご相談ください。

和知診療所情報

平成二十四年四月から午前中の外来診察時間は午前九時からとなりましたのでご注意ください。（水曜日の内科診察と金曜日の整形外科診察は、今までどおり午前九時三十分からの診察となります）

☎84―1112

行政 Information

平成24年6月1日から 放射線量測定器の貸し出しを 開始しました

このたび京丹波町では、町民の皆さまが東日本大震災後の放射線被ばくなどを心配することなく安心して暮らすことができるよう身近な生活環境などの放射線量を把握していただくために、放射線量測定器の貸し出しを開始しました。
貸し出しに関しての詳しい内容は以下のとおりとなりますので、希望される方は申請してください。

1 貸出機器

環境放射線モニタ PA－1000……3台

2 貸出窓口および設置台数

役場総務課 …… 1台
瑞穂支所 …… 1台
和知支所 …… 1台

3 貸出対象者

(1) 町内に住所を有する18歳以上の方
(2) 町内に事務所または事業所を有する個人または法人その他の団体
(3) 町内の行政単位の区など
(4) 町内に土地または建物を有する方

4 貸出期間

3日以内（貸出時間および返却時間は、いずれも午前8時30分から午後5時まで）

5 貸出台数

1回につき1台

6 貸出料

無料

7 申請受付時間

午前8時30分から午後5時まで

8 申請に必要なもの

(1) 町内に住所を有する18歳以上の方
印鑑、本人であることを確認できる書類（運転免許証など）
(2) 町内に事務所または事業所を有する個人または法人その他の団体
印鑑、本人であることを確認できる書類（運転免許証など）、町内の法人または団体と証明できる書類（社員証など）
(3) 町内の行政単位の区など
印鑑、本人であることを確認できる書類（運転免許証など）
(4) 町内に土地または建物を有する方
印鑑、本人であることを確認できる書類（運転免許証など）、固定資産を有していることが確認できる書類（固定資産税納税通知など）

9 注意事項

(1) 測定器の貸し出しは、町内での使用のみとします。
(2) 営利目的のための貸し出しは行いません。
(3) 貸し出した機器を特定の個人などが利益を得るような行為や、他人を誹謗（ひぼう）・中傷するような行為には使用しないでください。
(4) 第三者に対する転貸、譲渡、担保などはしないでください。

【問い合わせ先】総務課消防防災係　☎82-3800

地域の力で美しいまちに

■ボランティア・ロード丹波

四月二十九日、国道九号の丹波自然運動公園から京都縦貫自動車道丹波インターまでの区間において「ボランティア・ロード丹波」が実施されました。

この活動は、地域の方々が中心となり、町および道路管理者である国土交通省が協力し、毎年四月、七月、十月に実施。町の玄関口である国道の清掃活動を行うことで、美しいまちづくりを進めるとともに地域のつながりを深めることを目的に取り組まれています。

当日はゴールデンウィーク中にもかかわらず百四十七人が参加。午前八時三十分から作業が始まり、国道沿いの歩道と植樹帯の草引きや、ゴミ拾いに汗を流しました。

次回は、七月二十九日に実施されますので、皆さんのご協力をお願いします。

植樹帯で草引き作業を行う参加者
(国道9号沿い・蒲生)

地域ぐるみで事故防止を

■水原区高齢者交通事故防止モデル地区推進委員委嘱式および研修会

水原区公民館で五月十七日、高齢者交通事故防止モデル地区推進委員委嘱式および研修会が開催されました。

この事業は、京都府警察が平成六年度から行っている事業で、毎年各警察署の管内で一地区(山科警察署のみ二地区)を指定し、地区住民などを「モデル地区推進委員」として委嘱するもの。委嘱された委員は、地域内で高齢者の交通事故防止に向けた取り組みを展開していくこととなります

委嘱式では、松岡英人南丹警察署長が南丹・船井交通安全協会京丹波支部役員の谷垣羽世継さんを含む十人に委嘱状を交付。松岡署長は「京丹波町は京都府下で最も高齢者の運転者が多い地域。また、水原区が含まれる水原駐在所管内では今年に入り六件の交通事故があり二人が亡くなられているという経過もあり、今回モデル地区に指定することとなりました。これから委員の皆さんが中心となって、交通事故の防止に取り組んでください。」とあいさつしました。

その後に行われた研修会では中川正史交通課長からこのモデル事業の説明などが行われ、委員となった皆さんは、真剣な表情で中川課長の話を聞いていました。

研修会後の会場では、地域の団体の責任者などが、今後の交通安全に関する取り組みについて協議していました。

委嘱状の交付を受ける谷垣さん
(水原公民館・水原地内)

安全運転で交通事故防止を

■交通死亡事故多発警報発令に係る街頭啓発

南丹船井交通安全協会京丹波支部の役員が四月三十日と五月一日、道の駅丹波マーケスほかで交通安全に関する街頭啓発を行いました。

これは、四月二十一日に町内で発生した交通死亡事故に基づき、京丹波町が四月二十三日から五月二日にかけて発令した交通死亡事故多発警報を受けて行われたもの。丹波マーケスのほか、道の駅「和」、サンダイコー瑞穂店、ミニストップ瑞穂町和田店でも実施されました。

参加した同支部役員は、訪れた人に対し交通安全に対する意識を高めて安全運転を心がけてもらうよう声をかけながら、啓発チラシなどを手渡していました。

啓発活動を行う支部役員(丹波マーケス・須知)

素敵な出会いをサポート

■わち山野草の森deときめきツアー

初夏の新緑が鮮やかなわち山野草の森で五月十三日、「わち山野草の森deときめきツアー」が開催されました。

この取り組みは、京丹波町の観光PRと男女の出会いをサポートすることを目的に実施されるもので、昨年十二月に引き続き二回目の開催となりました。

今回は二十代から五十代の男女各二十四人が参加。初対面の参加者らは、八人ずつのグループに分かれ、協力して準備した昼食のバーベキューを楽しんだ後、今回の参加の記念としてソメイヨシノとハナミズキの苗木を植樹しました。

参加者らは、午前中から一緒に作業を行うことで親しくなり、植樹後は仲良く話しながら園内の散策を行うなど楽しい時間を過ごしていました。

植樹したソメイヨシノの記念碑を作る参加者
(わち山野草の森・坂原)

各地で見られた天体ショー

■日食

五月二十一日朝、京丹波町を含む日本各地で日食が見られました。

日食は、月が太陽の前を通ることで、太陽が隠される現象で、その見え方によって「皆既」「金環」「部分」などがあり、今回国内の広範囲で「金環日食」が観測できましたが、京丹波町では残念ながら金環日食を見ることができる「金環帯」から外れていたことから「部分日食」のみの観測となりました。

午前六時十八分頃から日食が始まり、月が太陽に重なっていくに従って、それまで強かった日差しが弱まり、薄暗い神秘的な状況の中、午前七時三十分頃には、日食が最大となりました。

その後、太陽の見える範囲も大きくなり、周囲も明るくなっていく中で、午前八時五十五分頃には元の太陽に戻りました。

町内では、丹波自然運動公園内の丹波天文館で日食の観賞会が催されたほか、町内の小学校などでも通学した子どもたちが先生と一緒に観測しました。

次に京丹波町で確認できる日食は、部分日食が二〇一六年三月九日、金環日食が二〇四一年十月二十五日となります。

長老ヶ岳山頂から撮影した日食(長老ヶ岳・仏主)

親子でリズムに合わせて

■子育て支援センター交流会

町内三つの子育て支援センターの交流会が五月十一日、町中央公民館で開催されました。

この交流会は、町内の保育所に設置されている子育て支援センターが年に三回行っている交流事業の第一回目で、昨年度に引き続き親子でリズムに合わせて体を動かす親子リトミックを実施。二十九人の子どもたちとそのお母さんが参加しました。

丹波子育て支援センター所長の津田知美(つだともみ)上豊田保育所長が「子育てで悩むこともありますが、自分でできる自分流のお母さんを見つけてください。これからも皆さんの子育てのお手伝いを行っていきたいと思います。」とあいさつした後、講師の藤田智子(ふじたともこ)さんの指導により、子どもたちはお母さんと一緒に音楽や歌に合わせて踊るなど元気に体を動かしていました。

次回の交流会は、七月四日に和知ふれあいセンターで開催されます。

音楽に合わせて体を動かす子どもとお母さん
(町中央公民館・蒲生)

住民参加の町づくりへ

■京丹波町区長会全体会

町内八十五集落の代表と町幹部職員の計約百十人が一堂に会した京丹波町区長会全体会が五月二十七日、町中央公民館で開催されました。

この会議は、平成二十二年度から始まったもので、今年で三回目。会議の冒頭、寺尾豊爾町長が「合併して今年で七年になる。この地域で暮らす人びとの絆を大事にして町づくりをしていきたい。」とあいさつを述べた後、本年度の施政方針などを説明。その後、各担当参事から平成二十四年度事業概要の説明および担当課から原子力災害住民非難計画の暫定版に関する説明などが行われました。

閉会時には、高橋由政区長会長（水原区）を含む本年度の区長会理事九人と、前年度の区長会役員で今年度は顧問となられた吉田昭さん（本庄）ら三人を紹介。高橋会長は「区長会としては、京丹波町が掲げられている安心・活力・愛のある町づくりに向けて町民とのパイプ役として頑張っていきたい。」とあいさつを述べ閉会しました。

町からの事業概要の説明を聞く各地区区長（町中央公民館・蒲生）

豊かな実りを願う田植え行事

■京都祇園八坂神社御田祭

五月二十七日、尾長野区（下山）において、京都祇園八坂神社御田祭が開催されました。

この御田祭は、昭和四十五年に京都祇園八坂神社と御分社である尾長野八坂神社の協議により始まったもので今年四十二回目の開催となりました。

当日は、地元関係者や観光客など約二百人が見守る中、午前十時から神事が開始。雅楽の演奏と巫女による舞に合わせて、地元の女性などによる早乙女八人が神饌田に入り、田植えを行いました。

その後、植えた稲の邪気を払うとされる獅子舞の演舞が祇園八坂神社青年部により披露されたほか、丹波八坂太鼓保存会による演奏など、厳かな雰囲気の中、祭礼が執り行われました。

今回、植えられた苗は、七月十七日の祇園祭（神幸祭）と七月二十四日の後祭り（還幸祭）に奉納されるほか、収穫後のわらを利用して、地元尾長野区の住民の手により祇園八坂神社本殿に飾られるしめ縄が作られます。

雅楽に合わせて田植えをする早乙女（下山地内）

力を尽くして記録に挑む

■南丹・船井中学校陸上競技選手権大会

南丹・船井中学校陸上競技選手権大会が五月二十六日、丹波自然運動公園内の陸上競技場などで行われました。

この大会は南丹市と京丹波町内にある八つの中学校と府立淇陽学校の生徒が参加した大会で今回7回目。本町からは、三つの中学校から延べ約二百八十人が出場しました。

この日は前日とはうって変わって快晴となり、初夏の強い日差しの中、陸上競技場などで百メートル走などのトラック競技のほか、走り幅跳びや砲丸投げなどのフィールド競技が行われ、生徒たちは日頃の練習の成果を出し競い合いました。

トラック競技で懸命に走る生徒たち（丹波自然運動公園・曽根）

田植えを通じて、豊かな自然を満喫

■あっぱれたんぼ田植えイベント

新たな観光名所となりつつあるあっぱれたんぼ。今年も五月二十七日に丹波自然運動公園付近のほ場で田植えイベントが開催されました。

晴天の中、地元曽根区住民のほか、公募で集まった約百二十人の親子連れらは、水田に張り巡らせた糸に沿って、古代米など品種の異なる苗を、横一列に並んで一株ずつていねいに植え付けていきました。

参加した子どもたちは、「田植えは初めてだけど、おもしろい」「苗が大きくなったら、また見に来たい」などと話し、慣れない作業に戸惑いながらも田植え作業を楽しんでいました。

今回植え付けた苗は、十月八日に行われる「稲刈りイベント」で刈り取る予定です。

泥だらけになりながら田植えを楽しむ参加者（曽根地内）

昨年のあっぱれたんぼ（曽根地内）

新緑の京丹波で交流

■障害者ふれあい広場

今年で四十六回目を迎える障害者ふれあい広場が五月十二日、丹波自然運動公園補助競技場とその周辺で開催され、京都府内から障害者やボランティアなど約四千二百人が参加。本町からは町内の障害者団体の会員や共同作業所の通所者など約百人が南丹・船井チームとして参加しました。

当日は朝から雨が降っていましたが、開会式が終わるころにはあがり、競技場内ではスポーツコーナーとして、コースの途中にある乳性飲料を飲んで走るぐい飲み競争や、パン食い競争、玉入れ、ざる引き競走などが行われました。南丹・船井チームは一位こそ逃しましたが、二位入賞と健闘しました。

また、会場および周辺では、決められた時間で設置されたチェックポイントを回るふれあいウォークラリーも行われ、参加者は楽しそうに参加していました。

このほか、会場内では京都府内の共同作業所などの福祉施設で作られたほっとはあと（授産）製品の販売や、昼休みには地元須知高校を含む南丹市および京丹波町にある四つの高校の吹奏楽部生徒による合同バンドの演奏も行われ、会場はにぎわいをみせていました。

パン食い競走でアンパンをくわえる参加者（丹波自然運動公園・曽根）

わたしたちの町

人　口	
16,324(−89)	
男	
7,708(−31)	
女	
8,616(−58)	
世帯数	
6,458(+2)	

6月1日現在／(　)は前月比

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,621,744円
復興支援募金	5,025,200円

＊平成24年5月31日現在

［シリーズ］第13回
食卓の一品にどうぞ!!

季節の食材を使ったお手軽料理レシピ

このコーナーでは、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに掲げ、食生活を通した健康づくりに取り組んでいる食生活改善推進員協議会の皆さんに、季節の食材を使って簡単に調理できる料理を紹介していただきます。

今回は、これから収穫期を迎える「じゃがいも」を、トマトやセロリと煮込んだ「洋風肉じゃが」。家庭料理の定番肉じゃがとは少し違った新たな味わいの一品です。

今回の料理

洋風肉じゃが

【材料（4人分）】

- ◆じゃがいも……400g
- ◆玉ねぎ……400g
- ◆セロリ……1本
- ◆トマト……大１個
- ◆グリーンピース……20g
- ◆豚うす切肉……200g
- ◆水……300cc

＜調味料＞

- ◇バター……10g
- ◇固形コンソメ……1個
- ◇塩・コショウ……少々

■作り方

①じゃがいもは、皮をむいて4つに切り、玉ねぎはくし形に切る。セロリは茎の部分の筋を取って、斜めに薄切り、豚肉は食べやすいように一口大に切る。

②鍋にバターを溶かして、①の野菜と豚肉を炒める。

③バターが全体にまわったら、水を加え、固形コンソメを入れて中火で10～15分程煮込む。

④じゃがいもが柔らかくなったら、塩・コショウを加えて、味を整える。

⑤皮を除いてざく切りにしたトマトとグリーンピースを入れて軽く混ぜ、弱火で2～3分煮込む。

1日に必要な野菜の量は300～350ｇ。このメニューでは約270gの野菜が取れます。

■栄養価（1人分）

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
270kcal	13.7g	9.9g	41mg	4.1g	0.3g

〈次回は9月号に掲載する予定です〉

【おわびと訂正】

広報京丹波第七十九号において掲載誤りがありました。正しくは次のとおりです。（傍線部分が訂正箇所）

十・十一ページ

中尾純子（南丹市立園部第二小学校）
松下真也（木津川市立加茂小学校）
校長・片山幸男（南丹教育局）
教頭・平田敬一（和知中）
山下智之（南丹市立園部中学校）
教頭・田中健介（瑞穂中）
スポーツ推進委員（任期一年）

十六ページ

（わちエンジェル・大倉）

おわびして訂正します。

編集後記

皆さんは、5月21日の日食をご覧になられたでしょうか。編集子は、長老ヶ岳の山頂から観測・撮影しました。

残念ながら京丹波町では金環日食は見ることができなかったわけですが、今回のような現象を写真に収めることは、この仕事をしていなければおそらくなかったと思いますので、よい体験ができたと思っています。

しかし、長老ヶ岳の頂上まであと少しというところまで車で行ったにもかかわらず、頂上に着いた時には息切れ。つくづく減量の必要性を感じた取材でもありました。

今後も、少しでもわかりやすく町内の出来事などをお伝えできるようフットワークよく取材に取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いします。（T）

京丹波町のシンボル

【町の鳥】うぐいす

【町の木】イチョウ

【町の花】つつじ